

LPガスCP速報(2022年1月積)

1. 1月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **740**ドル (前月比-55ドル)

ブタン **710**ドル (前月比-40ドル)

① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、原油市況が7年ぶり高値調整局面から再上昇するなか、LPガス需給は、気温低下で冬季需要が本格化、アジアの石化用の需要も堅調だが、供給は潤沢でタイト感はなく、極東の高在庫で引き合いは弱い。米国の輸出も順調、パナマ運河の渋滞緩和の一方、ヒューストンの濃霧による遅延が懸念される。

LPガス市況(極東CFR)は、原油市況に引きずられ、第1週はプロパン650ドル、ブタン640まで軟化していたが、第4週末にはプロパン745ドル、ブタン710ドルまで続伸した。

米国では、プロパン輸出、需要ともに堅調高水準が続いている。全米プロパン在庫は需要期で3週連続の減少、直近で前年同期比88%に回復も、5年平均レンジの下方に張り付いている(グラフ②はメキシコ湾)。米モンベルビュープロパンスポット価格は、上旬に500ドル割れや570ドル超に急騰する場面もあったが、概ね520~550ドルのレンジで堅調に推移した。月間平均は前月比120ドル下落の535ドルどころ(グラフ①)。今冬米国は比較的温暖な気候が続いているが、油断は禁物、低在庫をもたらした2月の米国大寒波の影響は記憶に新しい。

フレート市況は続伸。パナマ運河の通峡渋滞の緩和で一時下げていたが、産ガス国のアクセプタンスが出そろい中東市場は余剰船舶が減少、インド向けスポットもあり船舶需給はタイト。米国輸出は堅調で、今後は濃霧の影響が気になるところ。

ナフサは原油価格に連動、上旬の660ドルどころから中旬には700ドルを突破した。月間平均は699ドルどころで、前月比65ドルの続落。年初の500ドル前後から右肩上がりとなっていたが、一服。

バンカーオイルも原油市況に追従して推移、シンガポールIFO380は月間平均で前月比34ドル安の430ドルどころ、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同47ドル下げの645ドルどころ、両油種の格差は215ドルに縮小した。

1月CPは前年同月比プロパン190ドル、ブタン180ドルそれぞれ上昇。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン0.1、ブタン2ポイントそれぞれ上昇、前年同月比ではプロパン、ブタン17ポイントそれぞれ低い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	60	69	74	73	62
CP先物指標:P	650	710	710	710	695
CP先物指標:B	645	680	675	675	669

② 原油市況等

12月の原油市況をみると、WTIは先月の高値水準(2014年以来)から調整局面、65ドル台でスタートした。世界各国で新型コロナオミクロン変異株感染拡大による行動制限措置が拡がり需要減退懸念から軟化したが、感染しても軽症であるとの暫定調査結果を受け反発した。一方、OPECプラスはオミクロン株感染の影響は軽微であるとして7月に合意した協調減産の段階的縮小計画(毎月40万b/d)を維持していくとみられている。ただ、協調減産の順守率は11月も117%と増産計画が進捗しておらず、エクアドル、リビア、ナイジェリアなどの供給障害も市況引き上げ要因となっている。また、米国金融当局がインフレ懸念からテーパリング(金融の段階的縮小)、金利の引き上げを打ち出し、調整局面と楽観論によるリスク志向が交錯、金融市場のボラティリティが高まっている。

○12月積みアラビアン・ライト(12月1~31日までの想定)は75.84ドル(前月比-5.73ドル)

熱量等価AL100% プロパン621.81ドル/トン ブタン613.28ドル/トン

AL比 プロパン119.01% ブタン115.77%

*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

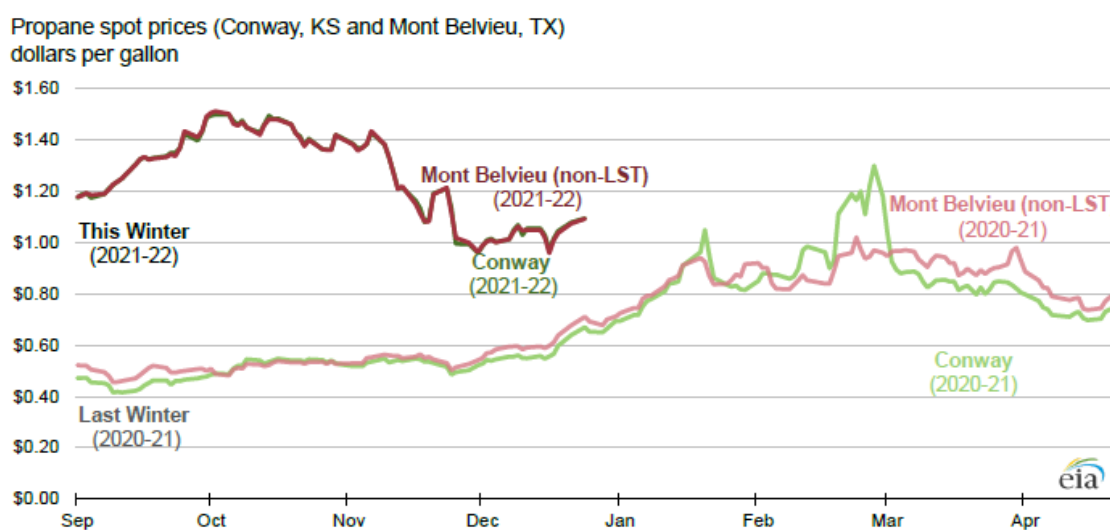
2. 2022年1月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	TTS	P円建CP	B円建CP	MB合成P	P前月比	B前月比	合成P前月比
①20日締め	114.83	95,300	91,000	91,300	-7,600	-7,000	-9,500
②末日締め	114.88	88,200	83,900	83,800	-7,700	-7,100	-9,600

*TTS平均について、①が11月21日～12月20日、②12月1～30日まで。①、②いずれも前月・当月CP50%案分。MB合成の比率は①、②ともにCP70%、MB30%で算定。①は中東・北米フレートを含むCFRコストを②はFOB（北米経費込み）コストを表示。

なお、上記MBは12月30日までの価格を基にEINで試算（535ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

①米国プロパンスポット価格推移



②米メキシコ湾岸プロパン在庫推移

